



はじまりはいつも 現場(ココ)から。

モノづくりの現場を変える「ひと知恵」ストーリー



数多くのモノづくり現場の課題を現実的かつ客観的に分析し、現場にあった指導・支援を手がけ「品質向上・コスト競争力向上・出来高向上」および「人材育成」を実現してきた株式会社平山のコンサルティング事業部。彼らが培ってきた、明日のモノづくり現場を変えていくための「ひと知恵」を紹介していく。

トヨタ流 仕事の教え方

「仕事の教え方」が悪いと、作業者は一定の手順を守らず品質にばらつきが出てくるのは当然の結果です。

- 「あの作業者はまだ新人だから、作業が遅いのです。」
- 「あの作業者は、手が不器用だから遅いのは仕方がないのです。」
- 「今日はベテラン作業者が欠勤しているので、工程の進み具合が遅いのです。」
- 「いつも作業者には口をすっぱくして言っているのですが、なかなか理解してくれません。」etc..

現場の管理・監督者の方々は、この言葉だけですべてを片付けてはいませんか？
大切なことは、作業者に一定の手順を教え、守らせ、元に戻らないような仕組みを作ることです。
現場の管理・監督者の方々は、これからはこう考えて下さい。

“相手が覚えていないのは、自分が教えなかったのだ” 『指導者の反省の標語』

1. 「仕事の教え方」で、品質・安全・生産性が変わる

品質・安全・生産性を向上の対策として、設備の更新やルール追加、チェック表の導入など、さまざまな施策が考えられますが、「仕事の教え方」について、研修を取り入れている企業は少ないかもしれません。

製造業の現場には、正社員だけでなく、パート・アルバイト、人材派遣会社・作業請負会社など様々な形態の作業者が働いています。雇用形態だけでなく、年齢、性別、国籍も違うことがあります。

「仕事の教え方」を学び、様々な作業者の方々に、いかに短期間に教育し、実際の作業を効率かつスムーズに行なえるようにするかが、良い教え方のカギとなります。

良い「仕事の教え方」とは	
1	作業者が正確に作業を理解し、再現できる状態をつくる 作業の目的、成否、安全、やり易く、を理解し決められた時間の中で繰り返し再現できる能力を習得する
2	作業のばらつきを減らし、品質・安全・生産性を向上させる 作業動作のムダやバラツキの削減を追求し、正味作業の割合と作業の質を高める
3	新人教育やOJTを効率化し、誰が教えても同じレベルの指導ができる 新人教育、OJTの実践を通して指導方法と指導者スキルのレベルアップに取り組む

2. 不完全な仕事の教え方の例

「もっと早く」「いい感じで」「慣れればできる」など曖昧な指示は、作業者にとって再現性がなく、標準化から遠ざかります。また、実演せず、手順だけを口頭で説明すると、誤解を生みやすく、作業者の理解度に大きな差が出ます。このように不完全な仕事の教え方は、不十分な理解のまま現場に出すことになり、品質・安全・生産性のリスクが高まるのです。

不完全な教え方	曖昧な表現	説明不足
失敗例	インパクトレンチ操作時に指導者がインパクトの握りを“しっかり”握って使用するように教えた、3日後に作業者は指が“ばね指”腱鞘炎になり作業ができなくなった。	溶接作業が出来ていると思い込んで任せていたら、先端から5mm残すことが出来ていなかった(ねじれに弱いクラックの原因)
対応例	「しっかり」は「力を入れて」と誤解されやすい。インパクトを握る力加減を、例えば「生卵をつぶれないように握れるぐらいの力」とか、作業者と握手をしてインパクトを握る力加減を再現、体感をさせるように“ 暗黙知 ”を“ 数値化、具現化 ”した説明、表現が必要。	なぜ5mm残すのか伝えていなかったため、たくさん溶接すればいいのかと誤解されていた。「こうやって」「この順番でやって」などの手順説明だけでなく、5mm残す理由を説明することが必要。理由を説明することで、応用も効くようになる。

3. 良い仕事の教え方とは

教えられる側の立場(人柄や経験)を考慮した教え方、特にカンコツを洗い出し、仕事の教え方の訓練計画を立てます。訓練計画における、いくつかのポイントをご紹介します。

✓ 仕事の目的は、最初に伝える

作業の目的「取り扱い部品の機能と作業の成否」を理解してもらうことで、作業者の意識と集中力が高まる。

✓ 手順・重要ポイント・理由をセットで教える

再現性を高めるため、TJIの基本である「手順 → 重要ポイント → 理由」を明確に伝えることで、作業者が“なぜその動作が必要なのか”を理解させる。

✓ 実演と説明を組み合わせる

言葉だけでなく、実際に指導者が作業を見せることで理解が深まり、誤解や思い込みを防ぐ。

✓ 相手にやらせて確認する

教えた内容(作業の目的・安全・成否・やりやすく・急所と急所の理由など)を相手が正しく理解しているか、言わせて、やらせる。やらせてみて、理解、習得を確認し、できるまで良心的に根気よく教える。

✓ 元に戻らないような仕組み(一度教えて終わりにしない)

できるようになったから終わりではなく、習熟度に応じて見守り、必要なタイミングで支援する。

教えた後、周期的に観察フォローし、問題点の改善を進める。具体的には、

- 初日は1時間ごと、
- 2日目は午前2回、午後2回
- 3日目は午後1回

という風に、観察を行い、疑問点や質問などを現場で作業者からヒヤリングし細かく対応していく。



実演と説明を組み合わせる

TPS実践道場 「仕事の教え方」プログラム

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1. 教える人の役割(指導者の定義) | 6. 教える方法(実演) |
| 2. 教える人(指導者)に必要な5つの条件 | 7. 教える前の準備 |
| 3. 訓練の必要性 | 8. 訓練 |
| 4. 不完全な教え方 | 9. 作業分解 |
| 5. 正しい教え方 | 10. 実習(実演&訓練) |

TPS実践道場では、トヨタ自動車の現場を40年以上支えた公式認定トレーナーより、TPSの物の見方考え方を講義と実践で習得することができます。

記事を書いた人



鈴木 満

TPS実践道場 センター長 トヨタ自動車OB 元元町工場工長

本社工場の組立職場や全社車両BMCを第一線で支えてきた筋金入りの現場職人。妥協を許さない現場への思いは人々を引き付ける。技能トレーナーとしても活躍し、トヨタ生産方式など、さまざまな現場教育、指導を実施。

実践編

生産現場レベルアップ研修

出張
開催

ムダを見つける目の醸成と改善力強化を養うための実践的なプログラム。生産現場での即時的な改善活動に直結する内容です。

開催形式

3回コース
(1回3h~4h)

日程

ご相談の上
決定

場所

貴社
指定場所



お問合せ・詳細

株式会社平山 コンサルティング事業本部 東京都港区港南一丁目8番40号
A-PLACE 品川6階 直通080-5688-7960

